

9. ガロアムシ目

(1) ガロアムシ目の生息状況

栃木県内からは、香川（2003）により1科2種のガロアムシ類が記録されている。

本調査では、文献調査のみを実施し、1科1種が確認された（表Ⅶ-9-(1)-1）。この結果、西那須野・塩原地区からは栃木県産ガロアムシ類2種のうち、1種（50%）の生息が記録されたことになる。

もう1種のヒメガロアムシは、八溝山地のみに生息することから、調査地内には生息しない可能性が高いものと推測される。

【表Ⅶ-9-(1)-1 ガロアムシ目の科別種数一覧】

科名※	本調査地の生息種	調査確認	(文献記録のみ)
ガロアムシ科	1		(1)
計 1科	1種		(1)種

※科の分類は香川（2003）に準じた。

調査地内ではガロアムシが記録されており、塩原地区の元湯、前黒山、富士山、小蛇尾川など山地帯に既知産地が点在する。県内では足利市から那須町まで標高約500～2,000mの区域に分布するが、産地は太陽光が直接当たらない沢沿いの礫地などに局限される。

(2) 保全すべき種

本報告書では保全すべき種として1種を選定した。なお、国内分布や生態などの解説の一部は平嶋・森本監修（2008）に拠った。

また、「環境省レッドリスト（2007）」及び「レッドデータブックとちぎ（2005）」で選定されている種類は、種名のあとにカテゴリーを示した。

①ガロアムシ（ガロアムシ科） 環境省：－、栃木県：－

本州の関東山地に分布する日本特産種。岩石の下や、土・朽木の中などで生活し、夜行性で幼虫・成虫共に小昆虫を捕食する。成虫になるまで7～8年を要するとされる。

栃木県にゆかりの深い昆虫類の一つである。日光市中宮祠が模式産地で、フランス大使館員であったガロア（E. Gallois）によって、1915年に初めて採集された。

生息地は前述のとおりで、特殊な環境に依存している。自然遷移や開発に伴い減少する可能性が高く、今後とも生息状況を把握していく必要がある。

(3) 注目すべき種

注目すべき種に該当する確認種はなかった。

(文責：渡辺 剛)

【目録】

※科の分類、和名・学名に関しては、香川（2003）に準じた。

※生息確認種と生息エリアは、文献記録から引用した。

科名	和名	学名	A 地域	B 地域	C 地域	山岳 地域
ガロアムシ目						
ガロアムシ科	ガロアムシ	<i>Galloisiana nipponensis</i> (Caudell et King)				□*1

【参考文献・引用文献】

※目録に引用した文献は、末尾に*を付している。

平嶋義宏・森本桂監修，2008. 新訂 原色昆虫大圖鑑 第Ⅲ巻（トンボ目・カワゲラ目・バッタ目・カメムシ目・ハエ目・ハチ目 他）. 北隆館，654pp.

香川清彦，2003. ガロアムシ目 Grylloblattodea. 栃木県自然環境基礎調査 とちぎの昆虫Ⅰ. 栃木県林務部自然環境課，pp. 135. *1

環境省，2007. 昆虫類レッドリスト. 絶滅危惧種情報，環境省ホームページ.

園部力雄，1998. 11 ガロアムシ目・バッタ目・ハサミムシ目・カマキリ目・アミメカゲロウ目・シリアゲムシ目・ハチ目アリ科. 黒磯市動植物実態調査研究会（編）. 黒磯市動植物実態調査報告書. 黒磯市動植物実態調査研究会，pp. 404-412.

栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館編，2005. レッドデータブックとちぎ. 栃木県，898pp.